

不知火と清見の貯蔵

不知火は平成6～8年の干ばつ年に酸含量の高いことが、また清見は最近の異常気象の中で貯蔵中の果皮障害が問題となった。これには果皮の蒸散・吸水能が関係しており、不知火、清見は干ばつ年と多雨年の品質変化をみても温州ミカンと大きな違いがみられる(図)。このように果実形質が異なることから貯蔵管理にも注意を要する。

今年は開花期が例年に比べて1週間ほど早く、また夏期の降雨が比較的多かった。11月1日時点で両品種とも果実肥大は良好であり、品質もおおむね順調に推移しているようであるが、果皮がやや滑らかで薄い傾向がみられる。(表)。開花が早いだけに熟期も早まるとみられるが、多雨年で、こうした形質特性から推測して、貯蔵中に果皮障害や腐敗果の発

生が懸念される。

不知火の成熟の早い果実は12月頃に最高気温15℃以上の温暖な一時期があると、降雨によって果梗周辺に水浸状の水腐れ症が発生し、貯蔵中に腐敗しやすくなる。また清見も果皮のはげしい吸水蒸散によって果皮障害が発生しやすい。ことに果皮の滑らかなものは貯蔵中の温度上昇にともなって多発することがある。これらの決め手になる防止技術はまだ確立されていないが、樹冠外周部の着色の早い果実は早めに分割して採取し、樹冠内部や下部の成熟のおそい果実はおそく採取し、早く採取したものと分けて管理するのが望ましい。

(南予分場 主任研究員 菊池泰志)

表 不知火、清見の肥大と果実品質 (11月1日 南予分場)

品 種 名	横 径 (cm)	縦 径 (cm)	1 果 重 (g)	果肉歩合 (%)	Brix	クエン酸 (g/100ml)
不知火 H 9	8.21	7.70	240.9	79.6	10.4	1.68
H 7・8 平均	7.77	7.30	216.8	77.3	10.5	1.96
清 見 H 9	7.42	6.35	182.9	77.5	8.4	2.38
H 7・8 平均	7.33	6.41	176.4	75.7	9.7	2.19

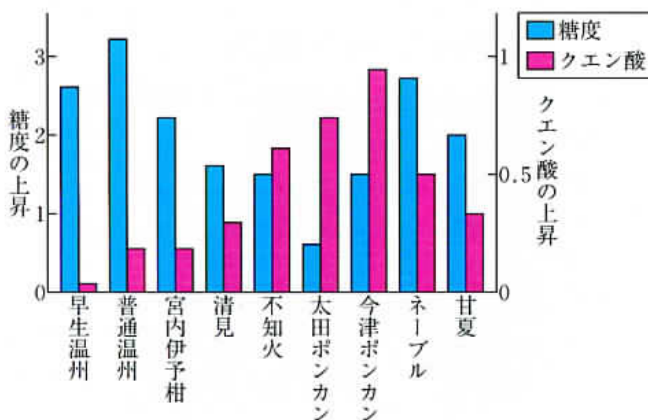


図 干ばつ年(H6)の多雨年(H5)に対する糖度とクエン酸の上昇の品種間差異 (収穫時点の比較差)

編集発行

愛媛県立果樹試験場
〒791-01
松山市下伊台町1618
TEL 089-977-2100
FAX 089-977-2100